

札幌市立はまなす幼稚園の取組

1. 研究のねらい

本園では、栽培活動や身近な自然と十分かかわることで、自然に対しての親しみの気持ちをもったり、命の大切さに気付いたりできるようにしている。また、廃材など、身近な物をいかした遊びを通して資源や物を大切にしようとする気持ちや態度を育てている。

そのような中、年長児はこれまでの経験に加え、地域の公園や施設に積極的に出掛けるとともに、いろいろな人と触れ合いながら育てていくことを大切にしたいと考える。

2. 取組内容

(1) 地域の高齢者施設訪問—おじいちゃんおばあちゃんからごみ箱と雑巾をもらったよ!

園の近隣の高齢者施設に毎年年長児が訪問し、歌や踊りを披露したり、一緒に手遊びをしたりするなど、触れ合う機会をもっている。そのお礼に、リハビリを兼ねてチラシで折ったごみ箱や古布で作った雑巾をいただく。雑巾はかわいいアップリケが付いていて幼児が喜ぶように工夫されている。園に持ち帰り、年少児や年中児にも披露し知らせている。



「お寺の和尚さん」触れ合い遊び

① チラシで作ったごみ箱の活用

日常のいろいろな場面で活用しており、「おじいちゃんたちが作ってくれたんだね。」「新聞のチラシでできているね。」と交流を思い出す姿がある。制作時に自分の近くに置き、切りくずを入れるごみ箱の他、材料を整理する小物入れなど、様々な場面で遊びや生活に便利なものとして役立っている。また、保育室の決まった場所に置くことで、必要と思った時に自ら使う姿がある。



制作の材料として

② 古布で作った雑巾の活用

弁当でお茶をこぼした時や汚れた時など、自分たちが必要な時に使うことはもちろん、学期末の大掃除では、自分の道具箱を拭いたり、床の雑巾掛けに使ったりしている。アップリケを見て、「これ、おばあちゃんが作ってくれたね。」と思い出し、拭き掃除も楽しんで行っている。「きれいになったね。」「棚の隙間にごみがあったよ。」と、ごみに対しての意識が高まり、身近な場所を掃除したり整えたりすることの大切さを感じる



雑巾がけ

ことにもつながっている。

(2) 地域の環境教育リーダーとの出会い—いつもの公園がもっと楽しくなったよ!

① 新たなネイチャーゲームを楽しむ

普段から出掛けることの多い公園。築山に登ったり、思い切り走ったり、鬼ごっこをしたりして楽しんでいる。また、ドングリ等の木の実も豊富で1年を通じて活用している。

この慣れ親しんだ公園で、初めて出会った環境リーダーさんからいろいろな遊びを紹介してもらった。「同じものを見付けよう」という遊びのメニューでは、普段何気なく見ている木の葉や枝にもいろいろな色や大きさ、匂い、形などがあることに気付く機会となり、五感をフルに動かす様子が見られた。

教師にとってもいつもの公園の活かし方や自然物を使う遊びを学ぶことができ、その後の保育に大いに役立っている。



「いつでもどこでもビンゴ」カードを使って

3. 成果と課題

(1) 成果

チラシで作ったごみ箱は、廃材の利用の仕方が広がるとともに、遊びや生活に取り入れ、様々な発想で活用し、有効に使おうとする気持ちを育むことにつながっている。また、地域の環境リーダーとの出会いは、身近な自然により興味や関心を高め、新たな楽しみ方や自然のとかかわり方を教えてもらう機会となった。

幼児にとって、身近な人との触れ合いの中での温かい心地よい体験だったことが、生きた知恵となり、かかわりの中で学ぶ楽しさをより感じることに繋がったと考える。

(2) 課題

本園では、園内に『ちっきゅん（環境キャラクター）』の表示をするなどして、水や電気を大切に使うことやごみの分別などが意識できるようにしている。今後も、人とのかかわりの中で学ぶ幼児の体験を保護者にも発信し、親子で身近な環境を大切にしたり生活に取り入れたり、自然のとかかわりを楽しんだりできるようにしていきたい。